

寒河江市学校施設整備計画改定（案）説明会 質疑応答

会場：この木交流センター

日時：令和5年10月11日（水）19時00分から20時30分

参加人数：18名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐

学校再編整備室 係長

（発言者A）

小学校の統合について、西部地区は高松小に新設するというのですが、西根小と三泉小はどちらの場所に建設するんですか。

（教育長）

西根小と三泉小は陵東中学校のところに、中学校を統合した後に新しい校舎を建設する予定です。

（発言者A）

小学校は統合する場所が決まっているのですが、中学校が検討中であるというのは、同時に小学校と中学校を進めているわけですから、中学校の場所がわからないと思うのですが、検討中ということでお知らせできないということですか。

（学校教育課長）

用地の検討につきましては、昨年度決めることになっておりましたが、今回このように計画の見直しを進めておりますので、用地選定の作業はストップしております。今回の予定では、12月に改定版を改定したら用地選定を進めていきたいと思っております。

（発言者A）

前の土地はキャンセル、やめちゃったということですか。

（学校教育課長）

検討をストップしており、決めてもいないです。

（発言者A）

1か所、2か所もですか。

（学校教育課長）

まだそこまでいっていません。

(発言者A)

例えば、我々はどこか詮索するわけですが、あそこだ、あそこだとなって、おおよそ決まってくるわけです。ということは話が漏れているということですよ。決めたのはそこだったと説明してもおかしくないと思って言ったのでした。巷に漏れているということは、いかがなものか。中学校の敷地がここだろう、いろいろ詮索して漏れている。なぜそういうことになるのか、おかしいのではないか。

(学校教育課長)

検討の初期段階ですので、漏れているのかわかりませんが。

(発言者A)

わかりました。

(学校教育課長)

そのほかございますか。

(発言者B)

用地選定の件ですが、今から選定していくにあたって、生徒数のバランス、公共施設の計画など、どちらを重視して進めていくのでしょうか。生徒数が多いところに中学校をもってくるのか。

(学校教育課長)

そういった点もこれから検討になります。その他ございますか。

(発言者C)

質問というよりは、お願いですが、今の話を聞いていると案としては、中学校の統合をしてから小学校の統合をするということで、人数的に見ると小学校で数十人の学校で生活してた子どもたちが、中学校にいくと1校の場合、いきなり1000人の学校に入るとか、2校統合でも500人の学校に入ることになると思うのですが、そうしたことを考えたときに先ほど説明の中にもありましたが、不登校がでやすくなるのではないかと想像するのですが、ここに書いてあるのは一般的なことといたしますか、わかるのですが、これ以上に気を付けないと、そのへんがなおざりになって、不登校の生徒が増える方に行くと思うので、検討していただくときには、十分配慮していただければと思います。

(教育長)

そういうご心配はあると思います。新しい学校に向けてもいろんな面から子どもたちのこころのケアを丁寧にやっていきたいと思っておりますし、統合前にもお互い交流する機会等をつくってやっていきたいと思っています。

(発言者C)

人数的にあまりにも極端なので、十分配慮いただければと思います。

(学校教育課)

その他ございますか。

(発言者D)

ここは柴橋地区なので、地元のことについてお聞きしたいと思います。西部地区の児童数の推移の数字が出ておりますが、例えば、柴橋小の場合はどういう形になるのか教えていただけないでしょうか。

(教育長)

去年生まれた子どもが令和11年度に小学校に入る年代になるので、そこまでの子どもの数を見てもみますと、今年の4月1日の段階で柴橋小は224名です。それからだんだん減っていきまして、令和11年度には158名の見込みとなっております。市の住民基本台帳でそれぞれの年代のお子さんの人数を計算していくとそういう数字になります。柴橋小学校は4年生と6年生が2クラスですが、6年生が卒業すると、新しく入る予定の来年度1年生は、31名の予定ですので、1クラスになります。普通学級7クラスですが、異動などがあると6クラスになる可能性のある人数です。

(発言者D)

ありがとうございます。もう1つですが、今回の新しい案という形では寒河江小、南部小、寒河江中部小、柴橋小が令和13年から学校の適正配置についての検討を行うとなっておりますが、前の計画では、新校舎を建設し統合することを検討と書いてありましたが、例えば、もう少しわかりやすく、西部地区はこうなるんだなとわかるのですが、柴橋の場合は、例えばの話はできないでしょうか、もう少しわかりやすく将来的なことをお話できる範囲で結構ですが、ご説明いただければと思います。

(教育長)

こちらがもともとの計画となっております。資料ですと4ページ、これだと令和13年度にどうするか検討を始めるということで、どうしていくか検討するけれども1つの案として、寒河江小と南部小、寒河江中部小と柴橋小を統合して、新しい校舎を作る予定でロードマップに載せています。ただ、これも1つの案ということで、ロードマップの下の方に小さい字ですが、児童数の動態や社会情勢の変化によって、寒河江小を陵東中跡地の新校舎への統合、南部小を寒河江中部小と柴橋小の統合校に統合することも検討していきますと、このあたりもはっきり決まっていない、これは令和13年度あたりから検討していきましようということでした。今回こういう形にしたのは、さきほどの案だと統合の方向で検討しましようとか、寒河江中部小と柴橋小の統合が前提になっていた感じがするんですね。そういうのはどうなのかというご意見を柴橋地区でも南部地区で

もいただいております。最初から2つずつ統合する仮の案で検討するというのではなく、これからどうしていくかを考えていこうという状況です。柴橋もさきほど説明したように、令和11年には160人をきるくらいの人数になるわけです。そのころ、高松、白岩、醍醐小をあわせた学校の子どもたちが120人くらいの見込みです。最初の挨拶でも申し上げましたが、小学校は地域との関わり、そういったことを大事にしていく必要があるだろうというご意見や、有識者会議でもそうした意見がありました。私たちも検討していくなかで、そうしたことを大事にしていきたいという思いもありますし、今後の柴橋小の人数もだんだんとわかってくるので、そうしたときにどうすべきかを地域の方のご意見を伺いながら検討していく予定です。今のこの案だと、例えば、南部小と寒河江中部小と柴橋小の統合とかもありうるかと、寒河江小、西根小、三泉小、陵東学区の統合もありうるかと考えているわけですが、もしかすると子どもたちがどんどん少なくなると、どうすべきだという声が出てくれば、そういうこともあるかもしれませんが、地域に残していくべきだというご意見が強くなればそうした方向で考えるとか、もう少し児童数や社会の動きとか見ながらこれから検討していくということですので、どうするかは今のところ白紙の状況です。

(発言者D)

ありがとうございました。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者B)

用地に関して、市の職員の方がお話しているという話もあります。そのへんは、戒めていただければと思います。

(学校教育課長)

徹底したいと思います。

(教育長)

用地についてですが、昨年度、最初の計画では令和4年度用地選定とありました。用地選定委員会を立ち上げ、検討をはじめたところでした。2回ほど検討会をしまして、そこで昨年5月から説明を始めたときに、小学校がなくなるのはどうなのか、こんな計画全然聞いてない、などいろんなご意見があったので、用地選定はストップしている状況です。1つか2つにその段階で絞ったということもありませんし、予定地がどこかあるというわけではありません。絞る前に昨年度の5、6月にストップして、これからこの計画が決まりましたら用地選定を引き続きやっていくという状況です。ただ、だいたいこの辺りではないかとか、いろんな形で話がでてくるかもしれませんが、市の職員もここだということで話しているわけではないと思いますが、だいたいあの辺りではないかという話をしている職員がいるとすれば、それは誤解を広げることになるので、そういっ

たことはないように用地選定委員会に出席している人には徹底していきたいと思います。

(発言者A)

懸案事項がいっぱいあるわけですが、土地の部門、先生の部門、子どもの部門などいろんなことがあると思います。職員がどれだけタッチするかわかりませんが、部局を作ってやるのでしょうか。課を作るなど。職員がいろいろやるのでしょうか。用地のことではなく、先生のこと、子どものこと、統合のことなどいろんなことを考えていかなければならないわけですが、職員の方が何名かいると思いますが、その方たちでやっていくのか、それとも部局を作って、土地の部門は誰々など部局を作ってやっていくのか、トータル的にこういう風にやろうとやるのか、どのようにお考えでしょうか。

(学校教育課長)

用地に関しては、その他もございしますが、庁内の会議で決めることになると思います。

(教育長)

その他、教育の中身、どういう学校にするか、地域の方からすればこういう場所がほしいといったことについては、学校の教員の代表、地域の方、例えば町会長さんの代表の方ですとか、保護者の代表の方、そうした方々を統合準備委員として組織をしまして、その中で話し合っていきたいと思います。例えば、制服、校歌、校章を考えていくときには、子どもたちの意見も取り入れながらやっていきたいと思います。

(発言者A)

誰が担当するのでしょうか。そういう部署を作ってやる方がいらっしゃるのか。みなさんでトータルでやってしまうのか。

(教育長)

組織を立ち上げ、事務局は教育委員会で担当しますが、ご意見をいただくのは、外部の方を入れた会議で決めていきたいと思います。

(発言者A)

もう1点、1番問題なのは、学校の先生もある程度教育しなければというようなことをここに書いておりますよね。地域にあったような教育ができるように先生の教育もしなければならぬと書いてありますが、先生の教育は誰がするのでしょうか。

(教育長)

教員の教育ですか。

(発言者 A)

教育と言いますか、生徒はこういう子どもがいるので、こうしましょうとか、地域に根差した先生になりましょうねという話をいろいろしなければならないと思うのですが、誰がするのでしょうか。

(教育長)

それは、教育委員会でもやりますし、校長、教頭もやっていくことになると思います。例えば、地域の中で小学校ですと伝統的な行事を引き続きやっている学校もあるわけですが、子どもたちが少なくなっていくとそれが続かないこともあるので、もう少し範囲を広げてそれをつないでいくようにしようとか、そういうことも考えていく必要があるかなと思います。

(発言者 A)

はい。わかりました。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者 E)

2点ございます。少子化ということで子どもの数が減っていくのはわかるのですが、現状を見ますと寒河江だけでないのしょうけれど、寒河江に例えれば、寒河江中部小学校は増えている、他が減っている、柴橋、醍醐が減っている原因わかりますよね。原因は、不便だからです。結婚しない人、出産の数も減っている原因もあると思うのですが、不便だからということで別な地域に家を建てて移る人、祖父母だけ残して自分たちだけ子どもを連れて移ると、そういうパターンが多々ある。一言で言えば不便だからということだと思います。不便とは何かと考えたときに、大人は車で移動できるので不便を考えないのですが、子どもは車で移動しないので、学校の近くに家がほしいというのが親の考えが一番だと思います。統合していきますと中学校がどこにくるかわかりませんが、柴橋であったり、白岩であったり、だんだんと減っていくと思います。この現象は避けられないと思います。それも念頭に入れてもらって、教育委員会だけの問題ではないのしょうけれども、今後、市全体として考える問題かだと思います。

もう1点、今回、中学校1校案でいろいろ1校にするとこういういいことがあるよとあげてもらっています。1校にしたことによってマイナス面もあるはずですが、いじめとか不登校とか若干でておりますが、それ以外にもいろいろあるはずなので、ここに提示しないで1校にした方がいいよと言うのは、変かなと思います。1校にしたときのマイナス面の検討をどうされたかを教えていただければと思います。

(教育長)

1点目の地域によって人口が増加しているところと減っているところがあり、家を別なところに建てて移って行って、減ってしまって、移ったところが増える。

このあたりは、いまおっしゃられたように教育委員会だけではなく、市全体として考えなければならない問題だと思います。市のいろいろな公共施設も老朽化してきていて、そして、建替えや統合を考えなければならない時期になっております。それを一緒に考えながらやっていくのが大事なかなと思います。中学校1校のメリットをあげておりますが、今回1校になった場合はこういったメリットがあるということで総合的に考えて1校案にしたわけです。1校にして大規模になったときには、先ほどもありましたように、不登校、いじめが増えるのではないかというご心配はあると思います。そういったことにならないように対応していくことが大事だと思いますし、今も人数が多いから不登校の出現率といえますか、100人あたり何人とかということからすると、それが人数が大規模であれば多いということではありません。いじめについても同じです。どう対応していくかが大事だと思いますので、十分対応していくように考えていきたいです。また、大規模になると中規模、小規模と比べたときには一人ひとりが何々委員会の委員長、副委員長になって活動するとかそうした機会が減るといったことはあると思います。ただ、考えた中で一番課題と考えているのは、例えば、2校にしたときにある程度の人数、400、500人がある程度続いていくのであれば、2校ということはありません。ただ、ここにありますように、子どもたちの人数が減っていくわけです。例えば、令和12年度には500人くらいの学校ですが、そこから減っていったら、令和17年度には490人と320人。このままいくと例えば2校統合した場合、300人をきるような人数になります。学年3クラスくらいの中学校になります。学年3クラスくらいの中学校ですと教員数も減りまして、例えば、国語、数学、社会とかの教員数は2名くらいにしかならない、そうしたことを考えたときにさきほどの説明でもありましたように、1校で最初は多いですが、どんどん減っていく状況にあり、そういったことを相対的に比べて、どちらが子どもたちの学びにとって有効かを検討して、今回1校案として再度お示しさせていただいたところです。

(学校教育課長)

よろしいでしょうか。

(発言者E)

わかりますが、いじめ、不登校についての話がでたときに、最初の説明で不登校について、学習面でのつまずきが大きいとありましたが、私はそれよりも人間関係かなと思います。いじめまでいかなくても人間関係で学校に行かなくなるということがあると思います。どこでも人間関係あると思いますが、大きくなればなるほど人間関係が複雑になってくるわけです。そのデメリットがあるはずですが、以前の河北中学校の統合なったときの話、その経験あるわけですから対処できると思いますが、人間関係のところをこれから十分に検討して進めていく必要があるんだと思います。学校の先生だけでなく、保護者も含めての教育をお願いできればと思います。

(教育長)

おっしゃられた人間関係は学校の居心地のよさ、学校に行って楽しい、また明日もともだち遊びたいとか、そういったことも基本になるのは人間関係だと思います。どのように人間関係を育んでいくかは大事なことだと思いますので、十分留意していきたいと思います。

(学校教育課長)

その他ご質問ございますか。多くの意見をいただきありがとうございました。以上で質疑応答を終了したいと思います。